

5/15-16

May 15~16, '04

参加者、
伊藤、岡部、北島、小海、
佐藤、田中、鳥飼、中島、
安田、山岡、横関、吉野、
ゲスト-吉村、

BMWRS Club

かわらばん

一年分の魚を食べたような
西伊豆土肥/漁師宿での一夜
かわらばん;中島邦雄 挿絵;小倉玲子

勇壮な神輿担ぎで夏を呼び込む三社祭りが終わり、東京の下町は本格的な初夏の到来を迎える頃となりました。ところが風薫る五月の爽やかに碧空の広がる日々が少なく、何か走り梅雨のようなユーウツな感じの毎が続いています。そんな中で今年もお馴染み西伊豆土肥の、毎度見事な魚づくしで喜ばされる「民宿川尻」での、お楽しみ一泊ツーリングが催行されました。此処で持て余し気味に魚を食べ酒を飲むと、他で食べるのが馬鹿ばかしく思える程です。

当日はこれ以上望めないような素晴らしい晴天に恵まれ、見事な富士山に出迎えられるかのように、快調に各車が中央高速を下って行きました。八王子料金所の外で久々に参加した岡部さんが合流し、計八台のバイクとなりましたが、その少し前に車で参加の田中、山岡両氏が出発して行きました。中央高速から河口湖方面へ向かうと、あたかも絵の見本のように中腹に雲を巻き付け、僅かに雪の残るそれは見事な富士山が、眼前に迫ってくるように現れ、何か得をしたような思いでした。出発時間が遅かった(十時半)せいか、降り口の河口湖料金所の遙か手前から車の行列が出来て、富士急ハイランドの駐車場も満杯でした。ジェット・コースターから歓声が上がり、久々の天気にもドット人や車が出てきた感じです。

以前にクラブで行った浅間神社に近い「おさかなやさん」という店を探し回り、そこで早目の昼食となりました。当クラブでも厳しくなった法令に従い、飯時といえどもツーリング中の酒はご法度で、従って食事時間も短く早々に出発となりました。東富士五湖有料道路で御殿場市へ向かいます。いかにも富士の裾野といった感じの道をご機嫌で走っていると、やがて御殿場の市街が目の前に広がり始めました。途中で給油をしましたが、ガソリン屋のお兄ちゃんの話では「明日はどうやらこの辺りは雨の感じで、箱根回りの方が無難でしょう」と変な事を言われました。予報通りに矢張り明日の後半は雨なのでしょうか?

御殿場から東名高速に入って「沼津IC」で降り、右手に「柿田川湧水」の立て札を見ながら混みあう市内を抜け、下田/修善寺方面へ右折しました。此処は道の両側に在る店へ入る車が乱暴に右左折し、いつも一瞬たりとも気の抜けない危険な道です。更に伊豆中央道へと向かいました。此処の料金所は無人でザルに硬貨を投げ入れますが、試しに二台が並んでゲートを走り抜けたら、無人の筈の料金所の爺さんが、偶然こちらへ向かって歩いて来て、血相を変えてわめきながら駆けつけてきました。横関さんが「知らない人が居たからすみませんね～」と分かったような分からないよう言い訳をして金を払い、一件落着きましたが、その後にもう二台が並んで待っていただけに、後で大笑いをしました。一台¥150円ですから¥75円にするのは大変です。

去年の一泊の際に事故の有った狩野川沿いの道を走り、時間的に少々早いのと時間調整の意味で、船原峠を入ってすぐの処に在るドライブ・インで休憩しました。去年までの会員で、今回はゲスト参加の吉村さんが、鳥飼さんの車に乗り此処で我々に合流しました。着いてからのビールを少しでも旨くしたいと、伊藤さんは水も飲まずにグット我慢をしたそうです。

峠を抜け土肥の町に入ると、やがて潮の香りがしてきて、穏やかな西伊豆の海が右手に広がり始めました。見慣れた風景ですが海を見るとホットさせられるのは、生命が海から始まったからだと言う人が居ますが、本当にそんな気にさせられました。すぐ近くの国民宿舎で温泉につかり手足を伸ばすと、200キロ少々を走ってきた疲れが、一気に体から抜けてゆく思いでした。六時からの食事迄はとても待てず、メンバーが近くで買い付けてきてくれたビールや焼酎が、乾いた胃袋に次々と吸い込まれ、まさに五臓六腑に染み渡るかのようでした。そこへ「横浜から二時間できたよ～」と仕事と一緒に走れなかった北島さんが駆けつけ、今日の参加者全13人が揃いました。そして六時から待望の新鮮な魚づくしの宴会の始まりです。

例のごとく一人に伊勢エビのボイルと刺し身が一匹づつ付き、親父さんの釣ったメジナの姿造りにアオリイカ更にサザエとアワビそして伊勢エビの網に入ったという珍味の法螺貝その他が山盛りです。一匹付けの黒メバルが、その身がはじけるように甘辛く煮付け、られ初参加のメンバーは、ウォ～凄いね～と歓声を上げていました。目は欲しいものの、肝心の刺し身の方は一向に減りません。この宿の番頭さんとも言える吉野さんが「ちっとも減ってないじゃないかよ～ばんばん食べてよ」と云ってくれますがペースは上がり、なんとアワビの刺し身まで残ってしまいました。とんだバチ当たりなことです。

途中で伊勢エビの頭を幾つか集め、それをダシに使ったみそ汁の大鍋が出てきました。これも楽しみの一つで酒を飲んだ後にはこたえられません。今年クラブ創設二十五周年目で、9月8日からイタリアをメインにしたツーリングが組まれ、その詳細が発表されました。興味のある方は連絡して欲しいとの事です。十分に飲み食いした筈なのに、残りの刺し身を持って部屋に引き上げ、二次会ならぬ三次会が始まりました。何人かで再度温泉に行きました。何となく雨風の感じで心配して居る内になんとポツンときました。



予報では明日の後半から雨なので、早目の出発を予定していましたが、案外と早くに雨が上がるのではないかと、勝手に良い方に考えました。夜半の二時過ぎにイビキの凄いい中で目を覚ますと、雨音も一段と大きくなっています。そして朝の酔い醒まし酒盛りの声で目を覚ますと、依然として細い雨が降り続き、外を見ると遠く山々も黒い雲に包まれていました。食事を済ませ先ず車の組が「渋滞の前に～」と帰って行き、レースの練習中に足首を折ったというのに、懲りずにバイクで参加した佐藤さんが帰って行きました。私がその後には続きましたが、船原峠は風と深い霧で怖い思いをしながらの走行でした。

西伊豆では今が天草(寒天の原料)採りの盛期で忙しく、とても我々の面倒などはみられなかったようですが、川尻の息子のような吉野さんのお声掛かりと、幹事の横関さんの熱意とで、今回の泊まりが実現できました。お二人のお骨折りを会員一同、心より感謝申し上げます。また来年もよろしくお願い致しますよ。